

# まようこ 議会だより

2016年2月24日 発行  
京極町議会

編集  
議会だより編集委員会

北海道虻田郡京極町字京極527番地  
TEL 0136 (42) 2111  
郵便番号 044-0101

## 朝陽に映える羊蹄山



## 除雪ボランティア

～スコップやスノーダンプを  
使い雪のかき出し作業～



### おもな内容 ～第4回定例会～

第4回定例会	2～4P
議会日誌	2～4P
意見書	4P
一般質問	5～15P
第1回臨時会	16～17P
議会報告会開催	17P
編集後記	18P

# 第153号

平成28年



◆TPP交渉大筋合意に対する意見書……………原案可決  
 提出者 議員 小柳 光 義  
 賛成者 ” 中村 厚 子  
 ” ” 四宮 幸 一  
 ” ” 渡邊 昭  
 ” ” 後藤 尚 浩  
 ” ” 船場 英 雄

**TPP交渉大筋合意に対する意見書**

日本政府は、本年10月5日米国アトランタで開催された閣僚会合において、TPP（環太平洋経済連携協定）交渉に関して大筋合意に至ったことを宣言しました。

農林水産物については、これまでの情報では、全体の8割が即時あるいは段階的関税撤廃の対象となり、聖域とされた重要5品目（米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、甘味資源作物）も3割が関税撤廃の対象となるなど、我が国において、かつてない農畜産物市場の開放がなされる方向が示されました。

TPP交渉については、守秘義務を盾に情報が開示されず、国民的議論も一切なされないままに大筋合意に至り、さらには、合意内容も小出しに開示されるとともに、

非関税障壁など未だ全容が明らかにされない内容も多く、地域の基幹産業である農業や地域経済が直接的・間接的にどのような影響を受けるのかも見えず、我々は大きな不安と政府に対する強い不信・憤りを抱いています。

つきましては、生産者が将来にわたり意欲と希望をもって営農を継続できるとともに、地域経済・社会および道民・国民の命と暮らしがTPPによって脅かされることとならないよう下記のとおり要請致しますので、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. TPP交渉の大筋合意内容の全容と影響、さらには国会決議との整合性について説明責任を果たすこと。
2. 生産者の不安を払拭し、将来にわたり意欲と希望を持って農業に取り組めるよう、規模の小や法人経営・家族経営を問わず、確実に再生産可能となる政策を構築すること。
3. 北海道550万人とともに、

我が国の食料安全保障や食の安全・安心の必要性、農業・農村の果たす多面的機能を含めた農業理解促進活動を展開し、国産農畜産物に対する支持と信頼を高める実効性ある対策を創設すること。

以上、地方自治法第99条の規定により提出致します。

平成27年12月18日  
 北海道虻田郡京極町議会議員長

【提出先】  
 内閣総理大臣・農林水産大臣

**議会を傍聴してみませんか!**

～次回の定例会は3月の予定です～

- 日程が決まりましたら町ホームページ、新聞等でお知らせいたします。
- 議会を傍聴する方は、議会事務局で住所、氏名を傍聴受付簿に記入するだけです。

皆さんの傍聴お待ちしております。



10日	議員全員出席 (公民館・湧学館)
14(15)日	議員多数出席 羊蹄山麓町村議会正副議長会定期総会(札幌市)
15日	正副議長出席 京極名水の郷発電所新設工事着工安全祈願祭直会
18日	議長出席 京極町議会改革検討会議(仮称) 全員協議会
22日	議長出席 共楽クラブ新年会
26日	議長出席 京極町議会改革検討委員会
28日	議長出席 第1回臨時会 京極町商工会新年会
29日	議長出席 羊蹄山麓町村議会正副議長会、羊蹄山麓町村長会議研修会・懇話会(留寿都村) 正副議長出席
2月10日	議長だより編集委員会

**一般質問**

**地域おこし協力隊による高齢者・障がい者世帯の除雪について**

12月の定例会では3人の議員が一般質問をしました。(内容を要約してお知らせします。)



質問 村上 敦 議員

総務省の取り組みの1つである地域おこし協力隊は、人口減少や高齢化の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致、その定住、定着化を図ることで、意欲ある都市住民のニーズ、要求に応えながら地域力の維持、強化を図っていくことを目的として、平成21年度から始まった制度です。具体的には都市など、京極町以外から京極町へ住民票を異動し、地

方自治体である京極町が地域おこし協力隊として委嘱して、一定期間以上、例えば農業の応援、町民の生活支援、地場産品の開発など各種の地域協力活動に従事してもらいながら、京極町への定住、定着化を図る意欲的、積極的な取り組みに総務省として募集経費、給与、その他経費など必要な支援を行っている事業であります。総務省が発表した日本の人口推計によりますと平成27年9月15日の時点で65歳以上の高齢者は3,384万人のうち、80歳以上は1,002万人で総人口の7.9%となり、過去最高の1,000万人を超え、高齢化の超進行を実感した次第であります。高齢化が進んでいる京極町におきまして、高齢者世帯、障がい者世帯のみなさんの除雪の一部を地域おこし協力隊を誘致活

用して、除雪の実施率を上げることで不安を解消し、更なる充実を図られるのではなからうかと思う次第であります。ここ数年、その市町村の体制に合った地域おこし協力隊設置要綱を作成し、募集から活動までの一連の流れの中で、地域要件などの協力隊に係る諸条件の確認のほか、サポート体制の構築などスムーズに活動を開始できるよう、事前のバックアップなどを図り、誘致している全国の自治体が、平成26年度の時点で1,511名、444自治体で、うち北海道は225人の隊員を受け入れ、約6割は男性、約4割が女性で、20代〜30代の若者が約8割となっております。総務省は平成27年9月8日、地域おこし協力隊の、任期満了後の定住状況を発表しました。全国最多の隊員が活動する北海道は79%と全国平均の59%を大きく上回り、任期中の活動を活かした仕事についた人のほか、起業した人も多く、今年3月末までに任期を終えた元隊員945人について調査した結果、活動した市町村での定住は443人、近隣市町村では114人で、合わせて557人。このうち、北海道は159

人のうち125人が定住、うち活動した市町村での定住が85人、近隣市町村での定住が40人で、総務省は隊員の起業に最大100万円の財政支援を、平成26年度に導入した効果とみています。なお、近隣でも喜茂別町、真狩村、留寿都村、蘭越町、ニセコ町が既に施行しております。以上のことから、この制度を活用し、すでに地域おこし協力隊を誘致している自治体を参考にしながら、誘致につきましての考え方を伺います。

**答弁 山崎町長**

地域おこし協力隊の取り組みとして、隊員は一定期間、地域に住んで、地域ブランドや地場産品の開発、販売、PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いつつ、その地域への定住、定着を図る取り組みであります。町といたしましては、今後地域おこし協力隊の導入にあたっては、大きく2つの点を整備していく必要があると思います。第1は協力隊員は何でも屋ではありませんので、明確な役割の中で年間を

通した活動計画、起業に向けた対応など、事前に町としても明確な位置付けをし、一定のロードマップを持つ必要があります。第2は強力隊員に対する地域を含めた支援体制の確立です。住宅の確保、地域住民及び関係機関の理解と協力であり、事前に地域のバックアップ体制を整備しておく必要があると思っております。現在の京極町における高齢者、障がい者世帯に対する除雪状況としては、京極町社会福祉協議会に事業委託をしております、昨年は有償ボランティア16名で35世帯の玄関前、窓下等の除雪を実施しておりますが、対象世帯の条件等もあり、十分とは言えない状況にあります。隊員が行う住民の生活支援の1つに除雪作業を組み入れることは、大変有意義であると考えます。町は1年ごとに隊員の活動計画を策定し、隊員に明確な役割を与える必要があります。本町においても主な役割は近隣町村と同じく、農業、観光、商業に関連する分野を想定しております。冬期間の活動の中で除雪等の地域支援を従たる活動として位置付け、福祉、介護分野の役割を担うことは可能と思われま

す。ただし、除雪自体が隊員にとり、重荷になること、隊員の活動あるいは活動後の起業等への影響も考えられますので、一定の配慮も必要と考えています。一案としては、除雪作業自体は隊員にとっても、重労働で危険な活動になることから、現在事業を行っている社会福祉協議会と連携し、隊員と共同実施することで、隊員にとっても負担が軽減し、また課題となつて除雪の改善に一定の効果も期待するものでございます。これらにつきまして、隊員となる方の意向も十分に尊重し、前向きに検討したいと思っております。京極町にとつて地域おこし協力隊の活動は地域活性化や地域のPR等、非常に重要と考えております。住環境や地域のバックアップ体制の整備を進め、平成28年度中の隊員募集に向け、積極的に対応してまいりますと存じます。

**質問** 村上 敦 議員

ひじょうに前向きな答弁をいただきました。初めての受け入れ計画、地域おこし協力隊。隊員の個性を十分に生かしてあげられるか

は、京極町職員が隊員としっかりと、コミュニケーションをとって、意思の疎通が出来るかで決まると思っています。隊員の話を聞く、町の人と交流しやすくしてあげる。個

**京極診療所（ひまわりクリニック）の今後の方向性と子育て支援対策の今後の進め方について**



**質問** 菊地 篤志 議員

京極診療所は、昭和12年開設以来、約78年間にわたつて本町並びに周辺町村の保健衛生や地域医療として重要な役割を果たしてきましたが、近年、人口減少等により患者数も年々減少し、財政を圧迫する状況となつてきました。この診療所の方向性につきまして、未だその方向が定まらず、迷走しているのが実態ではないかと思

性豊かな隊員の特徴を生かせるように、うまくサポートしてあげて下さい。誘致に向けて、よろしくお願いたします。

まず、改めていくつかの問題点についてお伺いしたいと思います。

第一に町長は、京極診療所をどのような設置目的で今後運営されて町民の皆様方の健康をどのように保持していこうと考えておられるのか。また公立診療所としての果たすべき役割はどのようなことなのか。

第二に、診療所の運営について、現在相当大きな財政負担を伴つておりますが、今後もこのような状況が続いても良いと思われているのか。思われていないとしたら、どのような方法で改善していこうと考えておられるのか。

第三に、平成21年に京極国民健康保険病院改革プランが策定されました。期間は平成21年度から平成25年度までの5年間であります。

その内容は、今後3年間、平成21年度から平成23年度までは現行の病院体制を維持し、この間に診療所を想定した規模の適正化について継続して議論を行い、早い時期に方向性を出しますということでありました。このことはご承知かとも思います。その時に議会と協議がなされ、平成24年4月から有床診療所ベッド19床でスタートしました。私は今現在の一般病床の19床について、明確に反対をいたしました。それはなぜか。①病院から診療所に移行することにより、国からの交付税が大幅に減少する。②診療所になつても、経費削減は限界があり改善されない。③医療型の療養病床のほうが有利であると提言をいたしました。この意見は受け入れられず、少数意見となりましたので、私は平成23年9月に確約書を提出することとして、それぞれの議員の同意を得た上で提出をいたしました。しかし、この約束はみごとに反故にされております。それは平成26年度中に協議して結論を出して27年度から新たな形態をとることができなかつたからであります。そこで、私は

今年の3月の予算委員会において、これら一連の経過について、町長に対し質問し追求いたしました。その結果、町長から確認書が提出されました。この確認書の内容は平成27年度中に結論を得るという事になつております。今年はまだ12月でありますから3ヶ月余りでこのことについての重大な結論を出せるのでしょうか。私はまた先送りになるのではないかと大きな危惧を持っておりますが、町長はどのようにお考えになつておられるか。お答えいただきたいと思つてお

次に私はこの診療所の形態について強い懸念を持つておられるのは、少子高齢化時代に入り、保険、医療、福祉、介護の充実はもちろん重要な政策の一つであります。その一方、少子化対策も重要な政策の一つであります。そのためには予算の削減できるところは削減し、子育て支援をさらに充実するもを育てやすい環境にしていくべきであります。他町村に遅れをとらず、大胆な政策を打ち出していく必要があります。例えば、保育料すべて無料化にする方法や、小中学生の給食費も無料化にして支

援する方法、あるいは3人目の子どもを出産した場合100万円の報償金を出す方法など、大いに議論すべきであります。また、今や地方創生が叫ばれておりますが、京極町の人口は平成27年度で3、150人となつておりますが、30年後には2、050人に減少するとされております。私の予想ではこのままでいきますと、約半分の1、500人前後になるのではな

いかと思つております。ですから、今からあらゆる政策を考案して、子育て支援対策を始めとする人口減少対策にしっかりと取り組んでいく必要があります。診療所問題を先送りしている時間はないと思つておられます。町長はこのような危機感はないのでしょうか。

**答弁** 山崎 町長

京極国民健康保険診療所の関係につきましましては、平成20年7月、町の主な機関、団体の町民代表によりまして、地域にとつて必要な医療をどのように確保していくかを検討するため、京極町国民健康保険病院のあり方検討委員会を設置し、町民にとつて医療は不可欠

で、町民の安心安全を担保とすることを第一に、病院自身の自助努力と共に現状に近い体制を維持し、19床の有床の医療機関として存続することを決定したところでございます。京極国民健康保険診療所の果たすべき役割は、公立の医療機関として民間医療機関による提供が困難な医療を提供することで、不採算地区病院として、医療が中心となり生活習慣病の予防、さらには介護予防の実施と保険、福祉、介護と一体となつた地域医療、ケア体制の充実を図るなど、町民の健康を守り、安全安心な生活を支える医療機関の使命を果たすことであると思つております。診療所の経営につきましましては、町財政全体のなかで判断し、行つております。現在の財政状況により、診療所の医療損失は国庫支出金と一般会計繰入金により、補填している現状にあり、一般会計の繰入金の中には病院から診療所になつた時に5年間減少分を特別に交付税としてみてもらう、その交付税等が含まれております。今後の診療所の運営につきましましては、診療所をなくするということは考えておりませんので、指定管理者制度ありきで

はなく、京極町の医療を存続のため町の目指すプライマリケアや地域医療を実践し、現状の医療体制を維持していくことを条件に制度導入の検討をすることと合わせ、有床、無床についても充分精査した上で、議員の皆様方をはじめ、関係する方々と協議を重ねてまいらなければならぬと思っております。先ほどの確認書の部分の中でも27年度中に一定の方向ということで、11月20日に全員協議会の中で、指定管理者制度ありきではなく、指定管理者制度を検討するということについては、了承するという一定のご了解もいただいたところで、現在指定管理者制度を導入した場合にどのような状況になるのか。しかしながら、一歩進んで検討していくためには、この制度の部分についても検討していかなければならないと思っているところですが、また実際に応募するところがあるのかも含めてそれらを踏まえた上で、さらには有床でいくのか、無床でいくのかということも平成27年度中には方向性を確立していかなければならないと思っております。

子育ての関係、子育て支援対策

の考え方について、少子化対策につきましても私どももひじょうに重要なことであると思っております。来年度の予算の中で現在、保育料の第2子と第3子、また学童保育の第2子と第3子、この分については国の制度にかかわらず、京極町の独自の対策として、無償化にできないか、財源等調整しながら取り組んでいます。また、高校生までの医療費の無料化につきましても、少子化対策として、取り組んでいけないかと思っております。

**質問** 菊地篤志議員

今まで京極町の保育料については、第1子は有料です。第2子は半額にすると、第3子以上は無料化だということ、京極町はずっとやってきたのかなと理解をしております。同じ形に来年度から、国が京極町がやってきた同じ形になるというニュースが飛び込んできました。今まで京極はむしろ先んじて国より先んじて、そういうことをやってきたのかなということとでございます。私の考え方は、国より先んじて、第1子からすべて3子、4子すべてのものについ

て無料化したほうが、良いのではないかと考えております。そういうことによつて、他町村の方が京極はこういう子育て支援対策を重要視してるんだよということになりますと、京極町に住んでそういう子育て支援しやすいような状況になるのかなと。またそのことによつて今の保育園が手狭だと、どんどん増えてきましたよということであれば、その保育施設を増設するんだと、増設してやりまよということになれば、それにまつわる事業も付いてくる、そういうサイクルで地方創生を考えていくと、いろんな知恵が出て来るのではないかと考えております。その積極的なお考えをぜひとも持っていたきたいと思います。

00万、減少病床分の交付税は3,000万と。町の一般会計からの負担金は6,700万。これらの財源で補填しているということになります。平成30年までは、この減少病床分の交付税が3,000万程度支給されますから、6,700万くらいは補填で済むわけですが、平成31年以降は、毎年1億円以上の赤字補填していくこととなります。町長は、平成30年度までは国からのこの3,000万があるから現状の運営を続けていきたいと考えておりますけれども、平成23年から、形態を変えた時からその指摘をさせていただいておきます。それが、さらに3年間先送りになるということになれば、7年間先送りされることになります。今度先送りしたからと言って、新たなその知恵は出て来ないと思っております。町長は指定管理制度で行うという考え方を持っているようでありますけれども、指定管理者制度ありきではないと言いながらも、議会で指定管理者制度を進める、あるいは検討する了解をいただきたいというようなお話がございます。1億円以上の損失が見込まれ、誰が考えても、京極町が半分赤字

分を補填しますと言っても、私は受けるところはないと思っております。先ほど設置目的、運営についてお伺いしましたけども、京極町の診療所の開設者である町長、また運営者である院長、従事者である職員、利用者である町民の方々が、共通の認識を持つことが大切であると思います。それらの考え方が一体化されることによつて、納得できる住民の受診が可能となるのではないかと思っております。おのずと診療所の方向が見えてくるのではないかと思っております。それで最後に申し上げたいと思っております。町長あなたは京極町のリーダーです。リーダーである以上、今こそ指導力、決断力を発揮して事に当たるべきだと思います。今までの答弁をお聞きし、どちらの方向に進むのかよくわからない、充分な答弁をいただいたと思いません。納得できる答弁を期待したいと思っております。

**答弁** 山崎町長

今は診療所に切り替わった時点で減少補填分ということで、病院から診療所に切り替わった分の補

填分ということ、5年間入つて来てるという状況ですけども、本来はそれをみないでも、赤字額については6,000万という一つの目途にとり取ること、取り組んで見ましたが、その後いろんな方の意見もあり、1億円というお金の損失については、今後も続くという予測の中で果たしてそれが可能なのか検討すべきであるというご意見も当然いただいております。その一方では、お金に代えがたい命を町民が安心してこの診療所に負託しているということについては、町長は1億円何としても出してやるんだという気構えも持つて取り組んでいかなくてはかとご指摘もいただいております。当初私がいろいろとこれまで言ってきたように、必ずしもスケジュールどおり進んでくるといふ状況ではございませんけれども、何とか今の診療所を有床で維持していきたく。みなさんが安心して暮らしていくために、やはりベッドは必要であると、何とかその方向でいけないうこと、この考え方の一つとしては、民間で委託して管理してもらおう指定管理者というものについても、一つの選択肢として、

議会のみなさん方にも一定の了解をいただいて作業を進めていくということとでございます。指定管理を受けるところがあるのかというふうに思いますけども、指定管理料払わないでやって下さいという部分については、ひじょうに厳しい状況だろうと想像いたしますけれども、温泉の指定管理の時もそうだったように、管理をお任せするときにどういった形なら管理できるのかという、提案を示していただくことも我々の判断する上での一つの判断材料ではないかと思っております。問題先送りでないかというご指摘でございますけれども、この期間が過ぎて、根本的に問題が解決できるのかということについて、ひじょうに厳しい部分もあろうかと思っておりますけれども、住民のみなさん方が子育てでも、いろんな施策大事ですけども、医療の取り扱いについても、ひじょうに大切なものである中で、重く考え取組んでくるといふ意見も充分踏まえ、取り組んでくるところでございます。何とか、指定管理者制度、実際に進められるのかどうかと。万が一進められないとすれば、どうい

**質問** 菊地篤志議員

指定管理者制度が前提ではないと言いながら、既に指定管理者制度に向かっているような気がしますが。現状の形態を維持して、指定管理者制度で引き受けるところは絶対はないと思えます。大幅な赤字が見込まれるからです。この赤字分をすべて負担するという条件であれば、それは引き受けるところはあるでしょう。1億円以上負担しますということであれば引き受けるところはあるでしょう。し

かし、それであれば、京極町の財政負担が今までと同じような状況で、指定管理者制度を進めていく意味はまったくありません。町長は既に指定管理者を想定しているように見えてしょうがないんですけれども、相手先は相応に慎重に調査をし、見極めなければ、京極温泉と同じように仕事預ければそれで何かしら好転するんだという考え方があれば、大きな間違いが生ずるのではないかと思います。温泉と大きな違いは住民の生命を預けるということです。仕事を指定管理者に任せて、相手先というのは実態がどうか、どういう形になってくるのかということも充分認識して、それから選定するべきでないかと私は危惧を持っております。

次にこの診療所の大きな問題は、19床のベッドをどうするのかということですが、今の一般病床のベッドで果たして良いのか。私は3年前に反対をしましたけれども、前沢先生の意志もございまして、一般病床になっておりますけれども、それでは19床のベッドをもっと違う考え方はできないのか、様々な角度で検討していく必要があると思

います。例えば療養型のベッドにしているのか。それから介護型のベッドにしてはどうか。それらを検討して、どう有利になるのか。あるいは、医療付きの高齢者住宅、こういうことを考えてみてはどうなのか。それから福祉施設との共用はできないのかということも考えられます。そして他の病院のベッドを、京極が借用できないのか。今言った5項目程度の考えられることを充分検討して、どうしても方法がない場合は、町民のみなさんがたの理解を得た上で、ベッドを所有せず、外来のみの診療所として往診などの充実を進めていくべきと考えております。私は現状の診療所の形態を根本的に見直さなければ、指定管理制度を進めても財政上の解決は私では

きないと考えております。しかし、町長自身が、医療にはいくら支出してもかまわないと、住民の生命は守りますということであれば、それは町長の政策ですから、話は別になります。その代わり、子育て支援対策はできません、農業の補助金は削減します、公共工事も削減します、国保税、上下水道料金は赤字なので値上げします、と

いのであれば私は理解はします。今や、高齢化社会がどんどん進んで、高額医療の負担も増えて、国保会計が相当圧迫され、値上げを余儀なくされると思います。京極町は財政的に有利だからいつまでも大丈夫なんだというような事には、私はなりません。決断力を持って、良識ある判断をすべきであります。

**答弁** 山崎町長

全員協議会の中でも指定管理者制度ありきではないということもございまして、私自身も、果たしてこの医師不足の状況の中でうちの条件に合う、そういうところが応募してくれるのか、ひじょうに危惧しておりますし、指定管理者をどこにということも、現在のところまったく想定していませんので、議員から言われました対策につきまして、この指定管理の部分と同時並行で検討して、一番良い方法を最終的に決断して取り組んでいくと思っております。いくら私がこうしたいと言っても、やはり命にかかわる問題でありますから、多くの方の理解が得られなければ、

私としても判断というのはひじょうに難しいと思っておりますので、そういったことを充分踏まえて、最終的な、当然私どもとして結論を出して協議をさせていただきたいと思っております。そういう意味では、大変重い課題でありますし、みなさん方の要望もあるわけでございますから、どれを削ってどれをという部分については、ひじょうにそれぞれみなさん方、大事なものでございます。そういったものを整理するというところについても、大変なエネルギーがいると思っておりますけれども、どこかの時点で結論を出していかなければならぬと思っておりますのでござ

**京極町議会からお願い!!**

議長宛の案内などの文書は、必ず議会事務局にお届け願います。



**ふきだし公園再開発整備の進め方について**

**質問** 菊地篤志議員

ふきだし公園の再開発につきましては、平成21年1月27日にふきだし公園再開発検討委員会が、約1年にわたり、ふきだし周辺の再開発に向け、現状における課題の洗い出し、今後のあり方について議論を重ね、さらには環境保全部会並びに観光開発部会の2つの部会を構成した中で、ふきだし公園の現状確認や他町村の視察を実施するなど、委員が互いに勉強し、報告書を提出するに至りました。しかし、委員としてはまだ、語りきれないほどふきだし公園の魅力は未知の可能性を秘めており、再開発を進める中で、時代の移り変わりと共にふきだし公園に対する町民の様々な思いが寄せられ、意見を申し出し、町民の誇りとなる素晴らしい公園として成長することを望みますという形でまとめられています。平成22年3月の議会におきまして、ふきだし公園再開発整備計画策定委託業務の予算が300万円です。実施されてお

ります。平成22年11月には報告書が議会に提出されております。結果的にはこの報告書は絵に描いた餅となり、いつまで経っても、実施計画に至らない状況が続いております。平成26年3月の当初予算において、ふきだし公園周辺整備基本計画策定委託料700万円を要求し、計上させたところであります。しかしながら、もう2年が経とうとしております。今年平成27年2月に中間報告書が提出されただけで、何も進んでおりません。検討委員会が設置されてから6年経過して、どのようになっているのでしょうか。町長はふきだし公園の再開発を進めるつもりでいるのでしょうか。今回も絵に描いた餅になるのでしょうか。診療所の質問と同じように先延ばししている時間はありません。地方創生に力を入れて今こそ、急ぐべきであります。このことについて町長はどのような考えになっているのでしょうか。

**答弁** 山崎町長

ふきだし公園再開発検討委員会の発足、検討委員会からの報告書に基づき、ふきだし公園再開発整備計画の策定をいただいたところでもございます。それを受けまして、遅々として進まないということもございまして、平成26年度において、ふきだし公園周辺整備基本計画を策定したところであります。基本計画に基づき、今後展開してまいりますけれども、検討課題も多岐にわたります。まず、緊急性のあるものを優先し、長期的な展望も検討しながら安心・安全対策を中心に、公園内の老朽化施設改修や老木の伐採など、できるものから整備を進めてきています。平成25年度にふきだし荘の除却、平成26年度は展望台階段手摺り等の設置及び八つ橋、木橋等の改修を行い、今年度は転落防止柵の設置や名水プラザの土台改修、展望台階段付近の植栽などを行っております。平成28年度も老朽化施設改修を主体に工事を行う予定です。観光地として湧水の保全対策や公園内の環境対策も課題として検討して

まいりたいと考えております。ふきだし公園は、京極町を創り支えてきた先人の苦勞と歴史を将来に語り継ぐものであり、守るべき大切な財産です。京極町の貴重な水資源及び美しい風景を地域全体で守り伝え、観光ニーズを的確に把握し、京極町の魅力を体験できる着地型観光を推進してまいりたいと考えています。ふきだし周辺整備の再開発を実施するにあたりましては、町民のみなさんはもちろん、観光客の方が賑わい、心安らぐ憩いの場となり、京極町の活性化に繋げていく検討を重ねてまいりたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。現在緊急を要するもの、老朽化対策等を中心に整備計画の中で盛り込まれてるものを含め、進めているところがございます。来年も、そのような考え方で、具体的に事業展開を進めてまいりたいと思っております。

**質問** 菊地篤志議員

ふきだし再開発につきましては、平成24年6月、平成25年6月の第2回定例会において、二度にわたって同僚議員からも厳しい質問がさ

れております。私も平成27年3月第1回定例会の予算委員会においても、質問をします。しかし、町長の答弁はふきだし公園の保全は考えるけども、再開発は考えていないという旨のご発言がございました。また、新たに用地を買収してまで、道の駅構想は考えていない。グランドの跡地にはパークゴルフ場を新設する、こういう内容の発言でございます。設計委託料は今まで2回分で1,000万以上の予算を使っています。このような予算を使って、ただ改修と老朽化対策を進めるということではないと思っております。多額の予算を使って、町長は何をしようと考えておられるのか。これらのお金はすべて国民の血税であります。私も議会は、一致してこのふきだし再開発を進めるべきということと望んでおります。このことについて、町長はどのようなお考えを持っておられるのか、お答えをいただきたいと思えます。

**答弁** 山崎町長

調査費を使いながら、今日まできているところでございまして、

最新の平成26年度にまとまった計画書の中で年度別に具体的に事業展開を示しているところでございますけれども、実施するにあたってはやはり計画でございまして、実施に計画どおりすべてやれるものと、そうでないものとあろうかなと思っておりますし、計画の中で速やかに取り組んでいけるなどというようなものについて、逐次取り組んでいかなければならないと思っております。議会のみなさん方もふきだし公園の再開発をどのようにしていくか、いろいろと議論いただいておりますし、そういったことも踏まえながら、財源の中で、どういう形で実施していくかというように、ご審議の予算の中でご提案をし、ご審議いただいております。ご審議の部分についても、活用してはどうか、こういうご提案も過去にいただいておりますし、今後どういふふうに取り組んでいけるのか引き続き検討してまいりたいと思っております。

**質問** 菊地篤志議員

これまでの町長の答弁を聞いて大変がっかりしております。このような状況で京極町の明るい未来は見えてきません。京極町は大きな遅れをとり、取り返しがつかず、立ち行かなくなると思っています。先



**質問** 鈴木敏行議員

本年の10月末に地方創生にかかわる京極町総合戦略が策定されました。総合戦略基本目標1には、魅力ある産業・観光・雇用を創出するとの目標を掲げ、地域資源を活かした観光の推進を計るとの基

ほども申し上げましたけれども、町長、これからは将来のビジョンを持って、判断力、決断力を持つて事に当たるべきであります。今の時代こそリーダーの手腕が問われていると思えます。前向きに物事を判断して進めていくべきであると思えます。

進し、滞在時間の延長を図る必要性を課題としております。現在本町においては日本の名水百選に選定されております名水が湧き、日本でも最も美しい村連合への加盟要件ともなっている羊蹄山を背景とした美しい農村風景であり、貴重な観光資源となっていることは否めない事実でございます。しかしながら、このことのみで着地型、滞在型観光への脱皮は不可能かと考えております。現在日本で最も美しい村連合への加盟をしておりますが、同連合への加盟は更なる飛躍につなげるための手段であつて、目的ではなかったのではないかと考えます。このことについて

の見解をお伺いいたします。本町においては、同様の事例が多く散見されていると考えられます。幸いなことに同連合への加盟は我が町のブランド形成に大きな役割を果たしております。このことの活用は我々町民、行政、議会にとつて大きな課題となっておりますが、最近の観光資源のあり方は従来の単なる景観観光では満足を与えることが不可能に近いと考えます。

我が町における観光スポットの発掘には知恵と知識の「知」、遊び心の「遊」、楽しい、いわゆるアメニティ、快適さと言うんでしょ

我々京極町としては人口減少、高齢化を向かえる中で考えなければいけない問題かと思えます。我が町の歴史の中で特筆されるものに脇方鉱山の存在があります。大正年間以降50年以上にわたり京極町の発展に大きな貢献をもたらしたこの鉱山は褐鉄鉱の鉱床として日本一の規模を持ち、京極町史追補版に寄稿を寄せました武井時紀氏によると、俱知安鉱山いわゆる脇方鉱山の歩みは北海道鉄鉱業史そのものであり、日本の近代化の一翼を担った貴重な産業遺産であり、何らかの形で復元保存したいとの一文を寄せてあります。地権者の理解を得て、観光ブランド化を図るためにも、ぜひとも産業遺産としての登録に官民を挙げて目指したいものであります。2016年は京極町開基120年の節目でございます。記念事業として、着手することを提案し町長の考え方を

お聞きしたいと思えます。合わせて点から面への展開の中で、町営牧場の活用もあり方も含め、更なる付加価値を加え存在価値を発揮できるプランの策定をお願いしたいと思えます。いづれにしても、観光資源の発掘は京極町が滞在型

**答弁** 山崎町長

観光に脱皮するための重要なポイントであります。そのコンセプトは「知」「動」「楽」「遊」「美」「健」「食」が複数混在することがキーポイントと考えます。さらに我が町が誇る湧水を含め、どのように活用するか、将来にわたつて存在し続けるために町民の英知を集め、具体的施策を我々の足もとを見つめ直して、今ある資源を探し出す必要性を指摘し、調査費の計上と実効性のあるプロジェクトチームの発足を提案して私の一般質問といたします。

京極町の観光資源の主なものとしては羊蹄山、ふきだし公園、京極温泉、さらにはイベントとして、しゃつこいまつり、ふるさとまつりなどがあげられます。長期の視点で観光を考えますと、着地型観光をどの様に定着し発展させていくかが重要な課題と思っております。名水百選の選定を契機にふきだし公園あるいは京極温泉を整備してまいりました。日本で最も美しい村連合への加盟条件の一つとして、将来にわたつて守り育てる

地域資源が二つ以上あることが条件になっております。京極の地域資源は、ふきだしの湧水と美しい農村風景で認められたところであります。ご指摘のとおり、これらは観光振興の一つの手段であり、目的では当然ございません。京極と云えば「水の美味しい町」という評価が定着しつつありますが、さらに観光の発展を遂げるためには、着地型観光を伸ばす必要があると思っております。ご案内のとおり、脇方鉱山は、褐鉄鉱鉱床として、日本一の規模をもち、また露天掘りであったことから道内製鉄業の飛躍的な発展の一躍を担ってきた歴史がございます。現在は、当時を忍ばせるものは数少なく、鉱山事務所あとに設置された碑と石蔵。そして、鉄橋の橋脚、鉄路跡地、卒業生有志が建てた「脇方小中学校跡」という石碑、露天掘り跡を見ることが出来る程度であります。このまま歴史を埋没させることなく後世に引き継ぐことは、大変重要なことだと思っております。今後多方面から検討が必要と考えております。来年は開基120年の節目の年であるというご指摘でもございます。日鉄鉱業株式

会社とも今後これらのことについて、意見交換をし、ご提案の部分について進めてまいりたいと存じます。また町営牧野につきましては、現在は、京極町畜産振興協議会が採草管理を行っている状況でございます。望羊の丘からの眺望は、正面に羊蹄山がそびえ立ち、尻別岳から二セコアンヌプリ、ワイスホルンと広く眺望が楽しめます。また、牧野内には一本桜の木があり、近年の「サクラブーム」にあやかり、一部の愛好者で注目されつつあります。この他にも、町内には観光資源となる原石は多数あると考えております。脇方鉱山跡、町営牧野などの原石をどう磨き上げていくか、また、個々の原石を点ではなく、どうつないで平面化していくか、さらには、「味覚」「体験」「参加」というキーワードを加えて、どう立体化していくか、観光振興における大きな課題と思っております。今や一つの町村で観光客の要求の全てを満たすことは困難であり、広域で連携して取り組むことが重要だと思っております。それぞれの町村の特色ある観光資源を広域で連携し、点と点をつなぎ、時には足並

みをそろえ、時には切磋琢磨していく姿勢が必要と考えております。最後に観光資源開発を進める上で、町民みなさんの意見を聞く場、ご提案のプロジェクトチームそういった形になるのでしょうか。そういったものの設置、外部からの視点の各種調査、さらに観光協会、ふるさとづくり推進委員会など関係団体と連携していくことが、何より大事と考えております。その際に予算の関係については、対応してまいりたいと存じますので、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

**質問** 鈴木敏行議員

町長から前向きなお言葉をいただいたと受け取っております。町長の言葉の中にですね、観光協会の活用という答弁もあったと思いますが、現状の中で観光協会、きちんと指導しているとは私自身は思えません。少なくとも、観光資源開発する上で、民間の活力をどう使うか、ひじょうに重要な点だろうと思えます。行政が主導してやること、行政だけじゃなくて、観光協会が実質的に作動している

のであれば、それは先ほどの答えでよろしいと思えます。実は観光協会、ほとんど役員はあて職です。実質的に動かしているのは行政そのもの。予算は観光協会にいつてますけども、その予算の使い道その他については、確かに1人事務局長、役場内に置いてはおりますけれども、その機能というのはひじょうにお寒いものがあるのではないかと思います。役場職員が主導して、準備をして、イベントがなされていく。私自身はそれは役場の職員、ひじょうに通常の仕事を持っていないながら、なおかつそういったもののお手伝いをする。本末転倒だという気がしております。特に観光と銘打った場合、それを教示するのなら、ただ単に行政だけでなく、町民全体です。特に商工の関係の方は、きちんと、問題意識を共有して進めなければ、また絵に描いた餅になる。この際ですから、観光協会の組織そのものを見直し、議会からの要望もあつたかと思えます。民間に思い切り委ね、町民総意のもとで観光資源を育て上げるという体制がなければ、かなり難しいなと感じております。町長のお考えをお聞きいた

**答弁** 山崎町長

観光協会につきましては今後十分に活用できるように取り組んでいかなければならないと思っております。また、民間の活力を利用するというようなご提案でございますし、その点につきましては、そのとおりだと思っております。全体的に、他の町村もそうですけれども、やはり民間の動きが活発なところが、町自体としても活力ある動きになっていくのではないかと思います。そういう意味では、役場の仕事として、大きなイベント2つは事務局役場が担っておりますので、それは仕事の一環として、させております。ということは、過去の経緯からして民間の方がその部分について支えきれないと、そうするとどうしても役場主導という部分があるのかもしれないけれども、それをどうまわしていくかというの、また事務局1つの方をいかに活躍してもらうかということ、とても大事なことだと思っております。具体的にお

願いすれば、その部分はかなり民間の方も積極的に携わってもらえると思っております。しかし、今言ったようにそれぞれ民間の方は職業を持っている中でひじょうに難しい部分もあつて今日に至る経緯もございますので、役場が全面に出るという形ではなく、民間の方に活躍の場を十分に発揮してもらおうようにしてまいりたいと思っております。そういう意味では、観光協会も確かにあて職でというようなこともございますし、見直しという点も含めて成果が見える形で取り組んでまいりたいと思えます。

**質問** 鈴木敏行議員

先ほどの私の発言を十分理解していただいて、同じ問題意識を共有しているということは、確認できました。ぜひ、観光協会も含めて、いろんな計画の中で、住民との協働がこれから大きなキーワードになるかと思うんです。改めてどうしたら住民と協働できるのか、十分考えていただきたいと思います。我が町は黙って私今まで26年間、見てまいりましたけれども、

町民のためという形でやりすぎの嫌いがあります。町民からの要望はできるだけ聞こうというという姿勢はひじょうに尊いんですが、町民からの要望に対して、行政はこういうことするよ、こういうことわかりました。あなたは、どうしてくれるのかと、町民に対する問いかけが、ひじょうに不足しているんじゃないかなと。今回の創生の問題についても、本当に今後この町の人口減少がこんなふうになつてるといふ理解は確かに町政懇談会で、説明なさつてますけれども、本当の意味での理解は得られてないと思っております。行政の苦衷をきちんと町民に知らせ、みなさんに手伝っていただかなければ、これから、動かなくなるということを、十分知らしめる中で、みなさんこうしてほしい、そういう問いかけを強めていただきたいと思います。先ほどの一般質問の中で、水資源の利用方法についてということ、話の中に出しました。これから、40年、45年後の計画で責任が負えない部分、かなり私は完全にありませんから、そういう面で、ひとつ大きな柱を作らなければ、これから町は成り立っていかないと

んじゃないか。そこで、もう1つ、先ほどの調査費は計上していただけるといふお話ですけども、もう1つ健康という部分で全員協議会の中でお話しました。ドイツにおけるクナイプ療法、いわゆる水療法です。その研究をぜひしていただきたい。戦前は日本の医療というのはドイツから学んでます。温泉療法というのはドイツから来ております。これと同じ時代にクナイプによる水療法、これが100年以上経つてですね、前にもお話したかと思えます。ひじょうに日本には、少ない資料しかないんですけども、大阪にクナイプ療法研究会というのがあります。日本の医療でも、これはきちんと資格さえとれば今のお医者さんがちよつとした勉強をすればですね、水療法士という資格は取れると私の調べではございます。ぜひ若い職員を、1回この、出来る出来ないは別に、こういつた内外のこういうものを研究させるような勉強させる機会を、持たせてあげていただきたいと思います。特にこのクナイプ療法につきましては、先ほど町長も触れておりますけれども、広域連携を考えながら進めな

**答弁** 山崎町長

今のドイツの関係ですが、私も十分そのへんのところについては、当然承知してなかつたわけでございますし、今鈴木議員のほうからいろいろご提案でございますので、機会をみて若い職員にもというようなことですので、勉強する機会もということができれば、それは検討はやぶさかでないのかなと思っております。



# 平成28年第1回臨時議会

## 審議された議案と結果

平成28年第1回臨時議会は1月28日に招集され、条例改正4件、補正予算4件を審議し、同日閉会しました。

### 条例

◆職員給与に関する条例の一部を改正する条例について  
.....原案可決  
主な改正点については、期末勤労手当の支給割合を4・1月分から4・2月分に引き上げ、民間給与の水準を踏まえ行政給料表を改正(平均0・4%の引き上げ)するものです。

◆京極町長等の給与に関する条例の一部を改正する条例について  
.....原案可決  
期末手当の支給割合を一般職の支給割合と同様に年間、4・1月分から4・2月分に改正するものです。

◆京極町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例について  
.....原案可決

億9,449万円とするものです。

### ◆主な内容

#### Ⅱ歳入Ⅱ

【地方交付税】 2,221万9千円減額

#### Ⅱ歳出Ⅱ

人件費に関するものは人事院勧告による給料手当等の改正及び職員退職、異動による増減です。また、共済費、退職手当組合納付金については掛金率の変更により減額となっております。

#### 【総務管理費費】

・給料 113万3千円追加

・職員手当等 108万円追加

・共済費 200万円減額

#### 【徴税費】

・給料 63万8千円減額

・共済費 70万円減額

#### 【児童福祉費】

・共済費 70万円減額

#### 【保健衛生費】

・共済費 70万円減額

・国民健康保険診療所特別会計繰入金 257万円減額

#### 【農業費】

・給料 365万1千円減額

・職員手当等 276万1千円減額

・共済費 210万円減額

・退職手当組合負担金 150万円減額

#### 【土木管理費】

・給料 123万円減額

・共済費 160万円減額

・退職手当組合負担金 70万円減額

水道特別会計繰入金 97万9千円減額

#### 【教育総務費】

・共済費 100万円減額

#### 【社会教育費】

・共済費 70万円減額

・文化・芸術、スポーツ大会参加補助金 81万3千円追加

◆平成27年度京極町国民健康保険診療所特別会計補正予算(第3回).....原案可決

予算の総額から、250万3千円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ2億9,978万円とするものです。

人件費に関するもので、人事院勧告による給料手当等の改正及び職員異動による増減です。

#### Ⅱ歳入Ⅱ

【一般会計繰入金】

不採算地区運営費 257万円減額

◆平成27年度京極町一般会計補正予算(第7回)  
.....原案可決  
予算の総額から、2,195万2千円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ60

### 補正予算

・共済費 210万円減額

・職員手当等 276万1千円減額

・共済費 210万円減額

・共済費 210万円減額

・職員手当等 276万1千円減額

・共済費 210万円減額

### Ⅱ歳出Ⅱ

#### 【医業費】

・給料 72万7千円追加

・職員手当等 77万円追加

・共済費 300万円減額

・退職手当組合負担金 100万円減額

◆平成27年度京極町水道特別会計補正予算(第4回)  
.....原案可決

予算の総額から、97万9千円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億7,128万3千円とするものです。

人件費に関するもので、人事院勧告による給料手当等の改正及び職員異動による減額です。

◆平成27年度京極町下水道特別会計補正予算(第1回)  
.....原案可決

予算の総額から、22万5千円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億2,574万円1千円とするものです。

## 議会報告会開催ー議会の活動をより身近にー

町議会は、議会活動や行政に関する情報提供に努めることを目的に、議会報告会を開催しました。11月2日(月)公民館で開き、有権者18人と意見を交わしました。

### ◎主な内容

開催時期・開催回数・会議時間・報告内容・議会活性化策など

### ◎出席者からの要望

「報告する内容について」↓議会における主な報告をいただきたい

「懸案事項について」↓議員皆様が、どの様な考え方を

持って進められるのか、伝えていただきたい。診療所について、運営の面など今後の課題である。厚生病院への支援について、町の対応はどうされるのか。

「議会の機能」↓議会の機能は十分に達せられていない。

「議会だよりの充実」↓記事の書き方を工夫してほしい。

「報告会開催について」↓住民への周知を事前におこなうこと(新聞掲載など)

このほか、開催時期・回数・時間の持ち方など意見が出され、年2回開催の検討と、開催に関する詳細な部分は、今後各議員と話し合いの中で進めていくことを確認させていただいた。

結びに、出席した各議員から、議会での自身の活動や、今後、町民からの意見をより多くいただける、意義ある報告会開催に向けた抱負を述べ閉会した。



# 議会を見学



京極小学校6年生24名が、12月22日議会定例会を見学されました。議会においてどんな内容が話され、どの様に進められていくのか、学習の一環として訪れたものであります。6年生の皆さんは、約1時間ほど議会での質疑の様子を真剣に聴かれました。

この度、休憩時間を利用し、議会をより身近に感じていただくために、児童5名が質問し、山崎町長が答弁する方法をとり、体験してもらいました。限られた時間ではありましたが、児童に貴重な体験をしていただきました。

# 編集後記

新しい年が明けました。2016年の干支は「申年(さる)」です。

動物のサルのごときは「猿」と書きますが、干支のサルに關しては「申」という漢字を使います。

2016年1月1日時点の申年生まれの人口は、991万人で十二支の中では二番目に少ない人数ということでした。

昨年末に京極町人口ビジョン・京極町総合戦略「まち・ひと・しごと創生総合戦略」人口急減、超高齢化が直面する大きな課題に対して、国と一体となって取り組み、各自自治体がそれぞれの特徴を活かした、自律的で持続的な社会を創出し、成長する活力を取り戻し克服する目的で策定されました。

京極町ならではの発想が、実を結ぶことに努力してまいります。

これからも、皆様にいち早く情報提供できますよう、開かれた議会と議員活動に取り組んでまいります。

本年もご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

## 議会だより編集委員会

委員長 四宮 幸一  
副委員長 鈴木 敏行  
委員 村上 敦  
” 後藤 尚 浩

